

# グルジア政治・経済 主な出来事

【2014年9月8日～2014年9月14日】

[当地報道をもとに作成]

平成26年9月17日

在グルジア大使館

## 主な動き

### 1. アブハジア・南オセチア

#### 【アブハジア】

##### ▼「アブハジア共和国外務省」の声明(9日)

・7日にヘーゲル米国防長官がトビリシで、グルジア国内からのロシア軍の退去を求めるなどと発言したことに対して、「アブハジア共和国外務省」は、「アブハジアは、南コーカサス地域で NATO によって作りだされた新たな脅威に対し、唯一の現実的な安全保障の手段として、ロシアとの軍事同盟の強化を検討している」との声明を発表。

### 2. 外 政

##### ▼パンジキゼ外相が第4回東方パートナーシップ非公式会合に出席(9日)

・バクーで行なわれた第4回東方パートナーシップ非公式会合に、東方パートナーシップ各国の外相、およびフューレ EU 拡大・近隣政策担当欧州委員、シュミット欧州対外行動庁事務次長、エッティンガー・エネルギー問題担当欧州委員会副委員長らが出席。

・2015年にリガで行なわれる首脳会談に向けた計画の実施に関する進展を評価。東方パートナーシップの更なる発展の重要性、および、地域が直面している課題について議論。外相会合に並行して行なわれたエネルギー問題に関する会合にはカラゼ・エネルギー大臣が出席した。

##### ▼クルツ・オーストリア外相がグルジアを訪問(10日-11日)

・マルグヴェラシヴィリ大統領、ガリバシヴィリ首相、パンジキゼ外相、カラゼ・エネルギー大臣らと会談。

・「パ」外相との会談では、二国間・多国間協力、地域の安全保障などについて議論。通商・経済関係に見られる動きを肯定的に評価。「パ」外相は、グルジアの経済発展に対するオーストリア開発局の貢献について感謝。在グルジア・オーストリア大使館の早期の開設を求めた。

・グルジアの主権・領土一体性に対するオーストリアの支持を改めて確認。クルツ・オーストリア外相は、連合協定の履行および EU との経済統合に関して専門家による支援を行なう用意があると述べた。

・クルツ・オーストリア外相の訪問に合わせてトビリシでグルジア・オーストリア・ビジネスフォーラムが開催された。

##### ▼ガリバシヴィリ首相がアゼルバイジャンを訪問(11日)

・アゼルバイジャンのアリエフ大統領、ラシザデ首相と

の会談。会談では、両国の良好な隣国関係および戦略的協力、地域的な安全保障、エネルギー安全保障などについて議論された。政治、経済、文化、エネルギーの分野での協力を強化することで一致。経済、エネルギー、輸送の分野で両国が共同で実施しているプロジェクトも取り上げられた。

・アリエフ大統領との会談後、「ガ」首相は、両国が戦略的パートナーであることを改めて確認したとして、グルジアに対するアゼルバイジャン企業による更なる投資が計画されていると述べた。

##### ▼ウスパシヴィリ国会議長がノルウェーを訪問(11日-12日)

・オスロで行なわれた欧州国会議長会議に出席。トメセン・ノルウェー国会議長とグルジア・露関係、ウクライナ情勢、グルジアの EU・NATO 加盟などについて会談。

##### ▼米国務省の報道官声明(12日)

・米国務省は、「野党代表者に対する捜査や刑事告発が続いていること、および、政治化された訴追がグルジアの民主主義にもたらす危険性を我々は懸念している」との報道官声明を発表。

・15日、声明について記者から質問されたガリバシヴィリ首相は、「グルジアでは政治的な迫害は全く見られない。この点についてはいかなる疑問も問題もない」と答えた。

##### ▼ウクライナへ人道支援物資を送付(12日)

・約100万ラリ相当の応急手当・手術用キット、医療機器、糖尿病の薬、抗生物質、小児用ワクチンなどがウクライナに送られた。セルゲエンコ労働・保健・社会保障大臣は「ウクライナ側から求められれば、更に支援物資を提供する用意がある」とコメント。

### 3. 内 政

##### ▼アチャラ自治共和国の内紛(8日)

・アチャラ自治共和国最高議会(定員21名)において、ベリゼ最高議会議長を含む「グルジアの夢・民主グルジア」党(GDDG)所属議員7名が、ハバゼ・アチャラ自治共和国首班の弾劾手続きを開始する意図を表明。弾劾はGDDG以外の与党連合所属議員および与党連合の指導部からは支持されていない。弾劾には最低14議員の支持が必要。

・33歳のハバゼ・アチャラ自治共和国首班は、もとカルトゥ銀行バトゥミ支店長。イヴァニシヴィリ前首相の指名を受け、2012年10月にアチャラ自治共和国最高議会から自治共和国首班への就任を承認された。

・14日、GDDG党首であるガリバシヴィリ首相は、トビ

リシで行なわれた党指導部の会合の後、アチャラ自治共和国政府の内政に「介入した」ことを理由として、ドゥンバゼ国会副議長を除籍したと発表した。「ドゥ」国会副議長はハバゼ・アチャラ自治共和国首班の弾劾動議を支援していた。除籍の結果、国会内の与党連合「グルジアの夢」の議席は83議席となった。

#### ▼サーカシヴィリ前大統領の「命令」に関するチカイゼ内相の発言(10日)

・「アリア」紙は、最近、「サ」前大統領がウクライナおよびトルコにて野党「統一国民運動」(UNM)のメンバーと会った際に、「警察に対する挑発行動などを通じて、グルジア国内に混乱を引き起こすため、500人規模の実行グループを組織するよう指示した」とのチカイゼ内相のインタビューを掲載。

・UNMは、内相が、犯罪率の悪化などの現実的な国内問題から「陰謀に関する作り話」に大衆の関心を逸らそうとしていると非難。

#### ▼イヴァニシヴィリ前首相のインタビュー(11日)

・「クヴィリス・パリトラ」紙が「イ」前首相のインタビューを掲載。インタビューのなかで、「イ」前首相は、マルグヴェラシヴィリ大統領がサーカシヴィリ前大統領の建設した大統領宮殿を使用していること、大統領府に対して検察が要求した前大統領の出費に関する資料の機密解除にすぐに応じなかったこと、尋問に関する法改正の発効を延期する国会の決定に対して拒否権を発動しようとしたことなどを改めて批判。大統領は政府を「競争相手」と見ており、政府の活動を阻害していると主張。

#### ▼マルグヴェラシヴィリ大統領が国連気候変動サミットへの出席を撤回(11日)

・ガリバシヴィリ首相が国連総会に出席すると並行して、「マ」大統領は同時に開催される国連気候変動サミットに出席する意向であったが、政府からは「国連に2つの代表団を送るのは国のイメージを損なう」として反対されていた。10日にはパンジキゼ外相が「マ」大統領に考えを変えるよう説得を試みたが、「マ」大統領は出席の意向を変えなかった。

・11日、「マ」大統領は記者会見を開き、外遊を阻止するための措置がとられたため、撤回を余儀なくされたと述べた。政府およびイヴァニシヴィリ前首相からの批判に対し、「個人的な対立」を否定し、大統領として、グルジアに機能的な民主主義を確立するために憲法の枠内で職務を遂行しているに過ぎないと述べた。

## 4. 経 済

#### ▼テクノロジーパークの建設計画(8日)

・経済・持続的発展省は、中小規模の技術企業の発展の促進を目的として、トビリシ郊外に18,000m<sup>2</sup>のハイテク革新技術発展センター(通称:テクノロジーパーク)を建設する計画を発表。

#### ▼2014年第2四半期の外国直接投資(9日)

・国家統計局が発表。2014年第2四半期の外国直接投資の総額(速報値)は151百万ドル(第1四半期は265百万ドルであった)。国別の内訳は金額の多い順にオランダ(93百万ドル)、アゼルバイジャン(77百万ドル)、ルクセンブルグ(48百万ドル)、トルコ(25百万ドル)、ロシア(18百万ドル)、米国(15百万ドル)、キプロス(11百万ドル)、スイス(8百万ドル)、中国(6百万ドル)、フランス(6百万ドル)。

#### ▼クヴィリカシヴィリ経済・持続的発展大臣が中国を訪問(10日-12日)

・天津で開催された世界経済フォーラムに参加し、南コーカサス・中央アジア諸国の経済統合の議論に関連して演説を行なった。

・中国の李克強首相、高虎城商務相らと会談。会談では、グルジアと中国の経済関係の発展や新シルクロード計画などが取り上げられた。

・郭平 Huawei社CEOとも会談。テクノロジーカルパークに関する大きな関心が示された。

## 5. その他

#### ▼マルグヴェラシヴィリ大統領が結婚(10日)

・長年交際していたマカ・チチュア氏と結婚。ともに既に成人した娘が一人ずついる。チチュア氏は妊娠中。

#### ▼コブレティのイスラム学校に対する嫌がらせ(10日)

・10日、コブレティで開校が予定されているイスラム学校の建物の入り口で、開校に反対する住民らが豚を殺し、豚の頭を入り口の扉に釘で打ち付けた。

・グルジア青年法律家協会など約10の市民団体は、事件を非難し、ムスリムに対する不寛容を反映した事件が増えているのは、政府の不適切な対応の結果であるとの共同声明を発表。

・11日、ガリバシヴィリ首相は、コブレティでの事件を「宗教に基づいた対立を引き起こす挑発」であるとして、「グルジア政府は国内での宗教的な対立や不安定化を決して容認しない」との声明を発表。グルジア正教会も事件を非難する声明を発表。

・12日、事件に関連して3人が逮捕された。

#### ▼グルジア正教会総主教がトルコ宗教局局长と会談(12日)

・グルジアを訪問中のギョルメズ・トルコ宗教局局长がイリア2世グルジア正教会総主教と会談。イリア2世総主教は、近年グルジア国内で300以上のモスクが建設されたのに対し、トルコ国内で機能しているグルジア教会はないとして、グルジア正教会に公的な地位を与えることを求めた。

・「ギョ」トルコ宗教局局长はマルグヴェラシヴィリ大統領とも会談。